

修士論文（要旨）

2024年1月

類義副詞「ぜひ・きっと・必ず」の使用に関する研究  
—日本語母語話者と中国人日本語学習者の実例を対象に—

指導 茶谷 恭代 准教授

国際学研究科

国際学術専攻

グローバルコミュニケーション実践研究学位プログラム

222J1003

DENG QIUTIAN

Master's Thesis (Abstract)  
January 2024

A Study on the Use of the Synonymous Adverbs "Zehi, Kitto, and Kanarazu":  
A Focus on Japanese Native Speakers and Chinese Learners of Japanese

DENG QIUTIAN

222J1003

Master of Arts Program in Global Communication  
Master's Program in International Studies  
International Graduate School of Advanced Studies  
J.F. Oberlin University  
Thesis Supervisor: Yasuyo Chatani

## 目次

1. はじめに .....	1
1.1 研究背景 .....	1
1.2 研究目的 .....	2
2. 先行研究 .....	2
2.1 「ぜひ・きっと・必ず」の意味用法に関する研究 .....	2
2.2 中国人学習者の「ぜひ・きっと・必ず」の習得に関する研究 .....	4
3. 研究対象と方法 .....	6
4. 「ぜひ・きっと・必ず」の母語話者の実例分析 .....	8
4.1 「ぜひ・きっと・必ず」と共起する文末形式 .....	8
4.1.1 「ぜひ」と共起する文末形式 .....	8
4.1.2 「きっと」と共起する文末形式 .....	13
4.1.3 「必ず」と共起する文末形式 .....	20
4.2 内省による先行研究との対照 .....	27
5. 「ぜひ・きっと・必ず」の学習者の実例分析 .....	31
5.1 「ぜひ」の学習者の使用実態 .....	31
5.2 「きっと」の学習者の使用実態 .....	33
5.3 「必ず」の学習者の使用実態 .....	35
6. まとめと今後の課題 .....	38

参考文献

言語資料一覧

本稿は「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」を利用し、日本語母語話者による実例を通して、「ぜひ」「きっと」「必ず」それぞれが使われる文の文末形式を分析し、モダリティ特徴を明らかにする。そして「日本語学習者作文コーパス」を利用し、中国人日本語学習者の作文において、「ぜひ」「きっと」「必ず」は如何に使用されるのか、中国人日本語学習者の使用の特徴を把握し、どのような誤用や非用が生じやすいのかを含め、母語話者の使用とどのような違いがあるのかを考察する。両者の違いを考察したうえで、日本語学習者の正用を導くために、日本語教育現場でこれらの副詞を扱う際の工夫や留意点を提示することを目指す。

母語話者の実例分析から次の点を明らかにした。

「ぜひ」は、叙述の〈希望〉、行為要求、勧誘、評価、意志、五つのモダリティを表す文末形式と共起することもできるが、聞き手にある行為の実行を求めるときや話し手自身の願望を訴えるときに使うことが基本的である。

「きっと」は主に認識のモダリティ、意志のモダリティを表す文末形式と共起しているが、主に話し手の捉え方を表す認識のモダリティに用いられており、ある事柄に対する話し手の確信や推量に使われている。また、「きっと」にも確率用法があるが、「きっと」の確率用法には真理を述べる例はあらわれにくい。

「必ず」は認識、評価、意志、行為要求のモダリティを表す文末形式と共起することができる。「きっと」と同じく認識のモダリティを表す文末形式との共起が多いが、その場合は確信を表すより、一定の条件のもとで繰り返す事柄の起こる可能性が 100%に近いことを表す確率用法に用いられることが多く、一般的、慣習的な事柄にも、真理に関わる事柄にも用いられる。

本稿の母語話者による実例の考察結果を先行研究と対照し、共起制限について検討した。小林 (1992) がまとめた共起制限表で「ぜひ」は名詞文、形容詞文とは共起しないという判断があり、本稿のデータでも典型的には同様の傾向が見られたが、「おすすめだ」と「ほしい」は例外であり、他の文末形式との関連で位置づけられることを述べた。「必ず」は名詞文、否定文とは共起しないという判断があったが、本稿のデータには名詞文、否定文で終わる文に用いる例があり、それは確率用法として用いられる場合であることを確認した。また、小林 (1992) の共起制限表では、「きっと」は共起制限の自由度が高く、表中の文末形式に共起しないと判断されたものはないが、本稿のデータでは「したい」「しろ」「してくれ」、推量形式「らしい」と共起する例は見られず、検討の必要があることを示した。実際の使用では「したい」「らしい」「しろ」「してくれ」と共起する例は本稿のデータには見られず、特に推量用法については、工藤 (1982) でも「きっと」と「必ず」いずれも「らしい」との共起は見られない。

さらに、中国人日本語学習者による実例を考察した結果、「ぜひ」を「きっと」「必ず」と混同した誤用がよく見られるため、「ぜひ」は認識のモダリティに用いないことを提示しなければならない。「きっと」と「必ず」の使用については、中国人日本語学習者と母語話者の使用に大きな差は見られない。しかし、「きっと」と「必ず」が「と思う」と共起する傾向には違いが見られた。母語話者の使用では「きっと」は「と思う」と共起しやすいが、「必ず」にはそのような例は見られず、工藤 (1982) でも同様の結果が示されている。それに対し、中国人学習者の使用では「きっと」よりも「必ず」を使う場合に「と思う」を

多用する傾向がある。

今後の課題をあげる。「ぜひ」「きっと」「必ず」はいずれも後続内容を省略して用いられる場合が多く、その場合にどのように使われるかを手がかりに、それぞれの副詞の特徴や使い分けを考察し、明らかにし得る可能性もある。また、学習者の「きっと」「必ず」の使用において、「と思う」と共起する傾向が母語話者との使用傾向が異なることを明らかにしたが、その要因をさらに中国語母語話者の中国語使用を考察することを通して解明する必要がある。

## 参考文献

- 王志英 (2001a) 「命令・依頼表現におけるモダリティ副詞-日本語の「ぜひ」と中国語の「一定」-」『日本言語文化研究』3: 13-25.
- 王志英 (2001b) 「命令・依頼表現における中国語と日本語の対照研究」京都大学大学院人間・環境学研究科博士論文.
- 王冲 (2005) 「中国の大学の日本語教育における副詞の指導への考え: 「きっと」と「必ず」の場合」『人間文化論叢』8: 259-266.
- 王冲 (2006a) 「副詞「きっと」の習得に関する研究: 中国人日本語学習者における典型的用法から考える」『日本語教育論集』22: 19-31.
- 王冲 (2006b) 「陳述副詞「きっと」「必ず」の意味と習得に関する研究: 認知言語学的観点から」『言語文化と日本語教育』32: 56-61.
- 王冲 (2009) 「日本語「きっと」「必ず」中国語“一定”との対照研究」『日中言語研究と日本語教育』2: 45-52.
- 工藤浩 (1982) 「叙法副詞の意味と機能: その記述方法をもとめて」『国立国語研究所報告 71 研究報告集 3』国立国語研究所.
- 小林典子 (1992) 「「必ず・確かに・確か・きっと・ぜひ」の意味分析」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』7: 1-17.
- 胡娜 (2019) 「中国語を母語とする日本語学習者における陳述副詞「きっと」と「必ず」の習得—中間言語知識体系の発達という視点から—」『日中言語研究と日本語教育』2: 45-52.
- 小学館・北京商務印書館編 (2002) 『日中辞典』第二版, 小学館出版.
- 杉村泰 (2009) 『現代日本語における蓋然性を表すモダリティ副詞の研究』ひつじ書房.
- 高橋美保 (2019) 「「と思う」の用法に関する記述的研究-推量用法と記憶再生用法-」『日本言語文化』47: 29-50.
- 中田智子 (1991) 「談話における副詞のはたらき」国立国語研究所編『副詞の意味と用法』: 81-107.
- 中道真木男 (1991) 「副詞の用法分類—基準と実例—」国立国語研究所編『副詞の意味と用法』: 109-180.
- 西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫編 (2000) 『岩波国語辞典』(第6版) 岩波書店. 岩波書店.
- 西原鈴子 (1991) 「副詞の意味機能」国立国語研究所編『副詞の意味と用法』: 47-80.
- 仁田義雄 (2009) 『仁田義雄日本語文法著作選 第2巻 日本語のモダリティとその周辺』ひつじ書房.
- 日本語記述文法研究会編 (2003) 『現代日本語文法 4 第8部 モダリティ』くろしお出版.
- 梶郁 (1991) 「副詞の意味機能」国立国語研究所編『副詞の意味と用法』: 2-46.
- 宮島達夫・仁田義雄編 (1995) 『日本語類義表現の文法(上)』くろしお出版.

## 言語資料一覧

『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』国立国語研究所 (出版書籍・出版新聞・出版雑誌コア・非コアを含む) 中納言 2.4.5 データバージョン

<<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>>

日本語学習者作文コーパス「自然言語処理の技術を利用したタグ付き学習者作文コーパスの開発」科研グループ

<<http://sakubun.jpn.org>>